

## 第3回 阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進協議会

### 議事要旨

1. 日 時 平成26年3月19日 15時00分～17時30分
2. 場 所 尼崎市中小企業センター 1階多目的ホール
3. 議 事 (1)「阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進計画（H25.3）」について
  - ① 阪神西部地域の取組状況
  - ② 指定施設及び指定候補施設
  - ③ 総合治水推進計画の啓発(2) 阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進協議会の今後の進め方
4. 出席者 60名（協議会委員、ワーキング構成員） 別紙参照
5. 配付資料 資料－1 阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進協議会設置要綱  
資料－2 阪神西部地域の取組状況  
資料－3 指定施設及び指定候補施設の一覧  
資料－4 「命と暮らしをまもるためにできること～これからの治水～」  
資料－5 「手づくりハザードマップ作成のポイント」  
資料－6 県下における総合治水の取り組み（情報提供）  
資料－7 阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進協議会の今後の進め方

## 【 内 容 】

1 あいさつ (阪神南県民局長)

2 講演「特別警報について」 (神戸地方気象台楠田気象情報官)

### 3 議事

3-1 「阪神西部(武庫川流域圏)地域総合治水推進計画(H25.3)」について

3-1-1 阪神西部地域の取り組み状況(資料-2を用いて事務局説明)

3-1-2 指定施設及び指定候補施設(資料-3を用いて事務局説明)

3-1-3 総合治水推進計画の啓発

① 啓発資料紹介(資料-4、5を用いて事務局説明)

② 県下における総合治水の取り組み(資料-4、5を用いて事務局説明)

3-2 阪神西部(武庫川流域圏)地域総合治水推進協議会の今後の進め方  
(資料-7を用いて事務局説明)

### 4 協議会委員及びワーキング構成員の取り組みに対する意見等

#### (1) 流域圏市 委員

・総合治水の取り組みの一つとして、梅雨前に広報KOBE防災特別号を全市民に配布している。北区以外では、平成24年から内水による浸水の可能性がある区域を示している。市民に対して、川があふれたもの(外水)と川に至る水路があふれたもの(内水)の区別をいかにわかりやすく伝えるかが重要な課題と考えている。有馬小学校で雨水貯留施設を設置した。今後、その貯留施設の機能を維持し、仕組みや役割などについて子供への教育にも使っていくことについても、さらに工夫が必要と考えている。

・市民への情報伝達として、現在25基の屋外拡声器を設置するとともに、ツイッターやフェイスブックなどで情報提供を行っている。来年度以降も屋外拡声器を追加設置を予定している。また、公共施設や各社会福祉協議会の会長に個別受信機や防災ラジオを配布しており、来年度以降、保育所、幼稚園、その他災害時要援護者施設についても拡大する予定である。

市民への啓発として市政出前講座制度があり、防災対策については市民の要望を受け、年間70回ほど出前講座を実施している。地域における防災力向上講座として、昨年度より、各自主防災会や社会福祉協議会が中心となり、まち歩きやハザードマップづくりの講義も実施している。地域により防災対策への取り組み意識に若干温度差があり、今年度は実施時期や時間帯、開催会場を各地域に分けて実施した。引き続き、来年度も実施することにしており、さらに工夫し実効性のある事業にしたい。

・時間47mmに対応した整備がおおむね完了しているが、浸水被害は依然として発生している。平成12年度から小中学校のグラウンドを対象にオンサイト貯留施設の整備を進め、平成17度からはオフサイト貯留施設の整備を進めている。平成24年度までに42校のオンサイト貯留施設の整備が完了した。整備当初、施設管理者は「グラウンドに常時水がたまる」、「グラウンドの水はけが悪くなる」というイメージを持っていたため、なかなか理解が得られなかったということが苦慮した点であった。協議を進めていく上で貯留施設について正しく理解して頂き、整備を進めてきた。

当初いろいろ学校からの要望や苦情等もあったが、整備を進めていく上で、それらも減っており、整備施設のメンテナンスも継続して行っている。減災対策として、平成 19 年度より地域の方々と協働しながら地域防災マップ（地域の手づくりハザードマップ）の作成を進めており、今年度末で 10 地区のマップが完成する。マップを作成する過程で、図上訓練やまち歩きなどに地域の方々に参加をいただいた。この完成したマップで実際に避難訓練を行っていただくなど、地域の防災活動において有効に活用してもらえていると考えている。今後も、流域対策、あるいは減災対策の取り組みを進め、総合治水推進計画における市の役割を果たしていき、災害に強いまちづくりに取り組んでいきたい。

- ・現在、阪急から南の地域では、各排水設備の申請があった場合には浸透ますを、500 m<sup>2</sup> を超える開発等においては、雨水のトレンチや、浸透ます等の設置をお願いしている。昭和 50 年代から始めており、これからも継続していく予定。平成 23 年度から、街渠ますの浸透化を始めており、平成 26 年度以降も継続して雨水流出抑制を促進したいと考えている。雨水貯留施設の設置助成金制度を平成 24 年度から始めており、来年度以降も引き続き実施する予定である。ただ、平成 24 年度は 35 件の設置実績があったが、平成 25 年度の実績は 15 件と少なくなっていることから、制度の PR 等により、市民の皆様にご利用していただけるよう努めていきたい。

- ・本市においても雨水貯留に対する助成制度は引き続き実施していく予定。内水ハザードマップ作成のため、浸水シミュレーションを平成 26 年度に実施する予定である。防災対策は、以前からやっているように危機管理部局と調整し、市民の出前講座を引き続き実施していく予定としている。

ハード対策としては雨水の下水道管整備を引き続き実施するとともに、ソフト対策として市民への啓発事業を引き続き実施していく予定である。

- ・昨年 9 月の大雨により、武庫川及びその沿川が増水したため、本市も避難指示を出した。現在、河川対策や流域対策など、様々な取り組みをしている中で、仮に今の貯留施設がなかったら昨年大雨の状況はどのような深刻な状況になっていたのかという比較データを出していただければ、武庫川の流域対策がこれだけ効果があるという実績が示されるのではないかと考える。今後、さらに河川対策や流域対策、減災対策を進めていく上で、対策をすることによってこれだけの効果があるということ PR する資料を提供していただければ、市民に対する説得力の向上になると考えている。

一方、本市においても来年度以降は防災マップや防災行政無線の整備、あるいは雨量計の増設など、減災対策に取り組んでいこうと考えている。

- ・現在、本市で整備中の新庁舎において、減災対策の一環で地盤面のかさ上げについて紹介していただいたが、新庁舎計画の中では、駐車場を透水性舗装、駐車スペースには芝生ブロック等雨水流出抑制にも努めている。

減災対策として、平成 22 年度から 3 年間、公助、共助、自助という 3 つの大きなテーマを挙げ、関西学院大学の室崎先生の協力を得ながら、減災のまちづくり調査研究事業に取り組んできた。平成 22 年度は公助をテーマに、市庁舎のあり方や災害対応を総合的に支援する災害情報システム等について整備、検討してきた。また、23 年度には共助をテーマに、地域の防災力を高めるということで、共助の役割を市民に伝える

ことを目的にモデル地域を3地域選定し、地域版の防災マップ、防災マニュアルを策定してきた。また、最終年度の平成24年度には自助をテーマに、個人、企業の危機意識の醸成を図り、自助の役割を市民に伝えることを目的に、個人、企業、学生を対象として、それぞれワーキングやフォーラムを開催し、意識啓発を図ってきた。地域版防災マップについては、作成の支援を行うことで、作成地域を広げている。

- ・本市は武庫川流域の源流域にあたり、武庫川の流域は市域の約15%程度である。昨年の台風18号により床上・床下浸水等の甚大な被害が出ており、現在、災害復旧を行っている。特に、羽東川上流の後川地区においては、河川の水位上昇に伴い避難勧告等を発令した。本市における総合治水の取り組みについては、3点の課題が考えられる。1点目は、防災・治水対策上、その機能が重要であると考えている森林の管理。最近、森林の管理が行き届いていないため、保水機能が低下しているという状況の中で、いかに森林の管理や里山林整備を進めていくか、今後も県の支援等を継続してお願いしたいと考えている。2点目は、河川の管理。本市では河川愛護の観点から、地域住民の方々に草刈りなどについて協力をしてもらっている状況であるが、最近、高齢化や人口減少に伴い、そういう活動そのものが困難になっている地域がある。今後こういう取り組みをどのように継続していくかというのが2つ目の課題。3点目は、河川そのものの機能。堆積土砂の撤去とか河道域の拡幅に関して、生物多様性に配慮しながら治水機能をどの様に持たしていくか、そのバランスをどの様にとっていくかが今後の課題と考えている。

## (2) 県民 委員等

- ・市の災害時要援護者支援条例を活用し、昨年の8月から地域で支え合う災害時要援護者支援の取り組みについて本格的に着手した。その後、要援護者の対象の方に対し、5段階の支援範囲を決め、市から支援を受けるための同意をいただき、登録を行っている。その登録の集約が完了し、3月末に市から提供される登録台帳をもとに、4月からは個々の要援護者の支援体制、支援計画をつくっていくという段階になる。最終的には、要援護者のマップをつくるというのが最終目標である。この取り組みを9月までに完成させ、この秋に計画されている市の総合防災訓練の中に、この支援の取り組みも盛り込んで、公表したいと考えている。
- ・武庫川の河口部では護岸掘削工事が始まっているが、昨年の台風18号の影響で、大量の土砂が上流から流れてきて、予想以上に土砂が溜まったことにより、工事完成時期が遅れていると聞いている。台風で大雨が降る度に、上流域からの土砂によって掘削した箇所に土砂が溜まってしまう状況を見ると、護岸掘削工事を行い、川幅を広げることが有効なのか少し疑問を感じる。それよりも、森林などの上流域で土砂流出を抑制する工事が必要と思う。また、校庭貯留については、生徒の7割が校庭を通過して校舎に入る学校もあり、雨水貯留により校庭が使えず、当日の朝に先生と私で生徒を誘導したという事態が生じた。もう1点、命を守るための河川工事ということで矢板護岸や堤防強化の工事が行われているが、工事のために木の根が伐開されることに少し寂しさを感じた。
- ・昨年の大雨で、阪急電車、JR東海道線、阪神本線、国道2号、国道43号のアンダーパスが水没し、南北への交通に非常に支障が出たため、これらの解消が今後の課

題と考えている。

- ・現在、市の指導により、5 年計画を設けてハザードマップ等を順次つくることになっている。地域によって違うが、ハザードマップや福祉も一緒に入れた福祉防災マップを順次作成し、知識の向上なり意識の高揚を図ることを展開している。また、台風 18 号により中流域の護岸に被害が発生したことを受けて、河川整備等を進めるにあたっては、基準や想定、前提条件を見直す状況にないかと思っており、今後の進め方の中では、そういう問題を逐次盛り込んでいただきたいと思います。
- ・小学校区の自治会長会の中で、防災マップを再度検討してはどうかと考え、検討を始めている。また、私どもの自治会はマンションが主であるため、増水の際には安全性の高い隣のマンションにも避難出来るよう、各管理組合に依頼し、了解を得るとともにその旨の住民にも周知している。
- ・三田地区の役員会で出前講座を行い、防災マップづくりの勉強をした。来年度は、三田地区で、武庫川に沿った自治会単位を中心にした防災マップを作成し「知る、守る、逃げる、備える」の意味を住民の皆さんと一緒に理解し、広めていきたいと考えている。
- ・私の地区の流域は大部分が水田であるため、台風 18 号の際も、田んぼが冠水したことが治水に役に立っているのかと思った。また、築堤の草刈り等の維持管理に努めている。防災マップについても私の地区は、ほぼ完成しているので、地域住民も少しは防災に関して意識しているのではないかと思う。

### (3) 県民 ワーキング構成員等

- ・兵庫県主催の第 1 回防災リーダー養成講座の卒業生であり、平成 19 年に三田市防災リーダーの会を立ち上げた。現在、市内各地区の防災訓練や消防訓練、各自治会や小学校において防災活動の支援や協力をさせてもらっている。
- ・毎年集中豪雨のたびに武庫川が増水し、地域に水害が及ぶのではないかと大変心配している。県営住宅に貯留施設が出来るとの事だが、中流、下流の増水をもう少し抑えていただけるような取り組みをしていただけたらと思う。
- ・先日、年に一回の防災訓練を実施したが、年々参加者が増えており、防災意識の高揚になっていると思う。また、要援護者に対する救済の手段等が大きな課題として今後も残るのではないかと考えている。津波問題については、市からいつでも聞けるラジオをいただいた。また、以前から問題となっていた市民に対して標高表示を工夫していただいたことは非常によかった。ただ、国、県及び市の評価が異なるため、どうすべきかがこれからの課題と思う。
- ・自然災害というのは、想像を超えるようなものであると考えている。災害時には何が起きるか分からないので、その時に自分はどうすればいいか考える必要があると思う。地域住民の一人一人が自分たちの地域の危険な箇所を確認し、自助としてどういうことが出来るかを考えておかなければいけないと思う。そのためには自治会や自主防災

会と連携し、地域住民の意識を高めていくことが大事と思う。校庭貯留施設等について、地域住民や学校など可能な方法で落ち葉清掃などの維持管理を確実にお願いしたい。

#### (4) 関係団体 委員等

- ・農地というのは、自然の雨水貯留をする格好の場所であるという中で、耕作放棄地がどんどん増えており、そういう状態では、貯留機能が発揮されないと考えている。組合員と一体となり耕作放棄地の減少のため取り組んでおり、雨水貯留の一端を担っていきたいと思っている。
- ・現在、市域では森づくり構想を計画され、今後 20 年間にわたる森づくりの方針を示される。市単独でも熱心に取り組まれているので、我々団体としても、この流域での市民の模範になるようなことに取り組んでいきたいと考えている。また、協議会資料の中に各市、あるいは県民の皆さんがいろいろ取り組まれている内容について、記載されていないものがあるため、今後は記載していただきたいと思う。
- ・災害規模が大きく、頻発している状況にある中、住民一人一人が防災意識を持って対応せざるを得ないような時期に来ている。地域住民は地域で守られなければならないということを見ると、単位自治会あたりの地域のリーダーの判断力と地域住民一人一人が、自分の身は自分で守ろうという意識を持ってもらうことが非常に重要である。今までハザードマップ、あるいは防災マップはたくさん作られているが、もう一度、地域住民の方が自分たちの手で作っていただきたい。そのことが命を守るという視点から一番の近道ではないかと思う。

#### (5) 会長

- ・校庭貯留等をこれから先、どのようにして機能が発揮できるようメンテナンスしていくかということは、皆様のご指摘のとおりで非常に大事な課題であり、機能的な維持だけでなく、それが果たしている役割等をどれだけ広く伝えていけるかということも非常に重要と考える。この協議会でご意見をいただいたことを改めて計画のさらなる推進に反映していただけるように願う。

第3回 阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進協議会出席者名簿【協議会委員】

日時：平成26年3月19日（水）15:00～17:30 場所：尼崎市中小企業センター 1F多目的ホール

		協議会委員		協議会出席者	
◎	学	神戸大学名誉教授		出席	川谷 健
県		神戸県民局	局長	代理	神戸土木事務所 企画調整担当主幹
		阪神南県民局	局長	出席	
		阪神北県民局	局長	代理	宝塚土木事務所 企画調整担当主幹
		丹波県民局	局長	代理	丹波土木事務所 企画調整担当主幹
流域市		神戸市	建設局長	代理	下水道河川部長
		尼崎市	副市長	代理	土木部河港・ 21世紀の森推進課長
		西宮市	副市長	代理	下水道部長
		芦屋市	副市長	代理	上下水道部下水道課長
		伊丹市	副市長	代理	下水道課副主幹
		宝塚市	副市長	代理	都市安全部長
		三田市	副市長	代理	都市整備部長
		篠山市	副市長	代理	まちづくり部長
県民		神戸市北区道場町	連合自治会長	出席	
		社会福祉法人尼崎市社会福祉協議会	理事	欠席	
		西宮市鳴尾東コミュニティ協議会	会長	出席	
		芦屋市自治会連合会	会長	出席	
		伊丹市自治会連合会	会長	出席	
		宝塚市花の道自治会	会長	出席	
		三田市区・自治会連合会	会長	出席	
		篠山市当野自治会	会長	出席	
関係団体		兵庫六甲農業協同組合（JA兵庫六甲）	常務理事	代理	マネージャー
		篠山市森林組合	代表理事組合長	出席	
		NPO法人ひょうご地域防災サポート隊	代表	出席	

◎：協議会会長

第3回 阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進協議会出席者名簿【WG構成員】

日時：平成26年3月19日（水）15:00～17:00 場所：尼崎市中小企業センター 1F多目的ホール

	WG構成員		協議会出席者		地域別WG
県	阪神南県民局西宮土木事務所	武庫川対策室長	出席	中村 浩康	座長
	神戸県民局神戸土木事務所 企画調整担当	主幹	出席	樋口 俊光	上流域WG
	神戸県民局神戸土木事務所	まちづくり参事	出席	前田 准平	上流域WG
	神戸県民局神戸土木事務所河川課	課長	出席	古川 仁	上流域WG
	神戸県民局総務室	主幹	欠席	野北 浩三	上流域WG
	阪神北県民局宝塚土木事務所 企画調整担当	主幹	出席	高見 忠良	上流域WG 中流域WG
	阪神北県民局宝塚土木事務所	まちづくり参事	欠席	上田 浩嗣	上流域WG 中流域WG
	阪神北県民局阪神農林振興事務所	副所長	出席	藤本 喜龍	上流域WG 中流域WG
	阪神北県民局総務企画室	室長	代理	主幹兼防災企画課長 葉山 琢	上流域WG 中流域WG
	丹波県民局丹波土木事務所 企画調整担当	主幹	出席	宮本 健一郎	上流域WG
	丹波県民局丹波土木事務所	まちづくり参事	欠席	出野上 聡	上流域WG
	丹波県民局丹波農林振興事務所	副所長	欠席	小舟 博文	上流域WG
	丹波県民局総務企画室	主幹兼企画防災課長	欠席	中村 直人	上流域WG
	阪神南県民局西宮土木事務所 企画調整担当	主幹	欠席	田中 修平	下流域WG
	阪神南県民局西宮土木事務所	まちづくり参事	欠席	常城 晋治	下流域WG
	阪神南県民局尼崎港管理事務所	副所長	出席	岡田 吉広	下流域WG
	阪神南県民局総務企画室	室長	出席	高橋 利雄	下流域WG
	流域圏市	神戸市建設局下水道河川部河川課	課長	出席	高田 三四郎
神戸市建設局下水道河川部		保全企画担当課長	出席	吉本 幸宏	上流域WG
神戸市危機管理室		計画担当課長	代理	地域計画支援担当係長 岩本 浩司	上流域WG
神戸市北区役所総務課		課長	出席	土井 敏	上流域WG
三田市都市整備部道路河川課		課長	出席	江田 政憲	上流域WG
三田市経済環境部農業振興課		課長	代理	農業土木係長 大井 政道	上流域WG
三田市総務部防災安全課		課長	出席	本荘 敏和	上流域WG
篠山市まちづくり部地域整備課		課長	出席	近成 和彦	上流域WG
篠山市農都創造部農都整備課		課長	出席	北山 博章	上流域WG
篠山市市民生活部市民安全課	課長	欠席	山本 寿幸	上流域WG	



	WG構成員		協議会出席者			地域別WG
流域 圏 市	伊丹市都市基盤部 都市基盤室下水道課	課長	代理	副主幹	上垣 竜治	中流域WG
	伊丹市都市基盤部 都市基盤室	室長兼計画課長	欠席		東 高文	中流域WG
	伊丹市総務部危機管理室	室長兼主幹	欠席		松浦 実	中流域WG
	宝塚市都市安全部生活保全室	室長兼水政課長	出席		足立 孝博	中流域WG
	宝塚市都市安全部危機管理室 総合防災課	課長	出席		江崎 康治	中流域WG
	宝塚市上下水道局施設部 下水道課	課長	出席		金岡 厚	中流域WG
	宝塚市都市整備部都市整備室 都市計画課	課長	出席		西本 学	中流域WG
	宝塚市都市整備部都市整備室 開発指導課	課長	欠席		上治 秀臣	中流域WG
	尼崎市都市整備局土木部 河港・21世紀の森推進課	課長	出席		細見 禎弘	下流域WG
	尼崎市都市整備局都市計画部 開発指導課	課長	出席		山崎 勝司	下流域WG
	尼崎市都市整備局下水道部計画担当	課長	出席		長岡 敬一	下流域WG
	尼崎市総務局防災安全部防災対策課	課長	出席		藤川 浩志	下流域WG
	西宮市土木局下水道部下水計画課	課長	出席		上野 史雄	下流域WG
	西宮市都市局都市計画部都市計画課	課長	欠席		清水 裕文	下流域WG
	西宮市防災危機管理局防災総括室 地域防災啓発課	課長	代理	係長	西岡 明人	下流域WG
	芦屋市上下水道部下水道課	課長	出席		岩崎 満	下流域WG
	芦屋市都市建設部都市計画課	課長	出席		東 実	下流域WG
	芦屋市都市建設部防災安全課	課長	代理	課長補佐	宮本 博嗣	下流域WG
県 民	神戸市北区道場町連合自治会	会長	出席		山下 政司	上流域WG
	三田市区・自治会連合会	会長	出席		藤村 晴彦	上流域WG
	さんだ防災リーダーの会	前会長	出席		藤野 稔	上流域WG
	篠山市当野自治会	会長	出席		酒井 重治	上流域WG
	伊丹市自治会連合会	会長	出席		永田 文也	中流域WG
	伊丹市自治会連合会	副会長	出席		長澤 孝	中流域WG
	宝塚市花の道自治会	会長	出席		森田 大和	中流域WG
	社会福祉法人尼崎市社会福祉協議会	理事	欠席		田中 正三	下流域WG
	西宮市鳴尾東コミュニティ協議会	会長	出席		室屋 俊一	下流域WG
	西宮市用海地区団体協議会防災会	会長	出席		西川 彰一	下流域WG
	芦屋市自治会連合会	会長	出席		堀 晃二	下流域WG
	芦屋市自主防災会連絡協議会	会長	出席		極楽地 英子	下流域WG

第3回 阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進協議会出席者名簿

【流域圏市関係部局】

所属等	氏名
神戸市建設局下水道河川部河川課	長岡 俊明
神戸市危機管理室	池原 浩平
神戸市北区まちづくり推進部総務課調査係長	石川 貴美子
尼崎市土木部河港・21世紀の森推進課係長	小川 博司
芦屋市上下水道部下水道課維持係長	夏川 龍也
伊丹市下水道課	山本 皓平

【県関係部局】

所属等	氏名
県土整備部土木局総合治水課武庫川総合治水室室長	高谷 和彦
県土整備部土木局総合治水課武庫川総合治水室課長補佐	當舎 良章
県土整備部土木局総合治水課武庫川総合治水室主査	首藤 充良
県土整備部土木局総合治水課武庫川総合治水室	吉開 裕也
神戸県民局神戸土木事務所河川課課長補佐	岡本 庄市
阪神南県民局総務企画室地域安全課課長補佐	杉村 辰巳
阪神南県民局西宮土木事務所長	阪出 裕昭
阪神南県民局西宮土木事務所副所長	黒田 正勝
阪神北県民局宝塚土木事務所企画調整担当	門長 百世
阪神北県民局阪神農林振興事務所技術専門員	今井 万雅
丹波県民局丹波土木事務所企画調整担当	今井 咲知
丹波県民局丹波土木事務所河川砂防課長	松井 康司

【事務局】

所属等	氏名
阪神南県民局西宮土木事務所武庫川対策室長	中村 浩康
阪神南県民局西宮土木事務所武庫川対策室武庫川事業課長	藤田 幸治
阪神南県民局西宮土木事務所武庫川対策室武庫川事業課主査	雨森 尚子
阪神南県民局西宮土木事務所企画調整担当	田辺 舞

議事録確定著名人: 伊藤道司 